



「第五福竜丸」音声ガイド制作の現場でお話を伺いました。

目の不自由な方も 映画を楽しめるように

ボランティア団体

映画音声ガイド埼玉Kiitos

Kiitos(キートス)の「Ki」はキネマ、「i」は一緒に、「t」は楽しむ、「o」は音声ガイド、「s」は埼玉を表し、「Kiitos」はまとめて、フィンランド語で「ありがとう」という意味。

連絡先(ホームページ)

http://wiki.livedoor.jp/eiga_kiitos

「焼津港。第五福竜丸の旗が風ではためく。久保山がボストンバッグを手乗り込む」
映画「第五福竜丸」の上映開始とともに、「映画音声ガイド埼玉Kiitos」によるナレーションが始まります。

* * * * *

「映画音声ガイド埼玉Kiitos」は、目の不自由な方も映画鑑賞を楽しむことができるように、登場人物の動きや場面の状況を説明する「音声ガイド」をつける活動を行っています。セリフとセリフとの間の限られた時間で観ている人に伝わるような音声ガイドを考え、上映当日、映像を説明していくのです。鑑賞する方には携帯ラジオを持参していただき、FM電波にのせて音声ガイドを届けます。

「最近では先天的に目が不自由な方ばかりでなく、糖尿病などにより後天的に目が不自由になる方も増えています。映画館での上映時に音声ガイドがつくことはまれです。そこで、目の不自由な方々も一緒に映画を楽しむことができるように、この活動を始めました」

平成18年に結成され、現在は20名余りが活動しています。

「とくに先天的に目が不自由な方の場合、人が遠のく状態を「だんだん人物が小さくなる」と言っても、わかりにくいのです。状況が手にと

るようにわかりやすく吟味してナレーションを入れることが大事で、1本の映画にガイドをつけるのに2〜3か月はかかります」と、シナリオづくりの苦労がうかがえます。

しかし、「音声ガイドにより映画を十分に堪能できたと喜んでいただけるときには、本当に苦労が報われたように感じます」「映画から新たな知識も得られるので自分の勉強にもなるんです」と、みなさん活動の中でそれぞれのやりがいを見つけているようです。

また、「私たちの強みは、年齢、性別にかかわらずなさまざまなメンバーが集まっていること。いろいろな個性が集まっているからこそ、良い音声ガイドがつけられるのだと思います。ときには、映画に関心がなかったメンバーの視点がかえって参考になることもあるんです」と、メンバーそれぞれが個性を発揮し、それを認め合うことが活動の原動力となっているようです。

今後の活動については、「目の不自由な方に映画をもっと気軽に楽しんでもらえるようになればと考えています。そのためにも、まず、私たちの活動をより多くの方に知ってもらい、活動の幅を広げていきたいですね」と語ります。「映画音声ガイド埼玉Kiitos」のメンバーは未来を見据え、大きな充実感にあふれています。

広告スペース

